

ヘブル人への手紙 第13章 15節

「ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。」

喜びに満ちる言葉である。喜んでいる姿からうまれる。この喜びは苦難のなかにある信仰の兄弟姉妹への勧めである。私たちとことわっているのは、信仰共同体への勧めである。主にイメージされるのは集会における礼拝での讚美の勧めである。讚美のいけにえとある。いけにえとは犠牲を捧げることである。血が流れることである。いのちを捧げる行為といってもまちがいでない。それが、御名をたたえることである。それが、くちびるの果実を絶えず神に捧げることである。

喜び楽しむことを排除するわけではないが、ここでの賛美はいけにえといわれている。それも、自分たちの喜び讚美とは向きが異なる。御名をたたえることである。礼拝共同体のひとりひとりのくちびるの果実として御名をたたえることである。苦難のなかにある共同体へ勧める。辛く厳しい信仰の闘いに直面していたかもしれない。迫害下に置かれていたかもしれない。その教会に向かい届ける勧めの言葉である。神に絶えず賛美のいけにえをささげようではありませんか。ときが良くてそうでなくても、絶えずである。私たちはキリストを通してできる。

2024年2月3日